

『平成21年度 第1回 横浜市食育推進計画検討委員会』会議録

開催日時	平成21年7月2日（木曜日） 午後2時から4時まで
開催場所	横浜市役所 7階 7S会議室
出席者 （五十音順）	伊奈委員、今平委員、岩瀬委員、梅澤委員、大竹委員、金子委員、鈴木委員、中山委員、長谷川委員、馬場委員、日和佐委員、矢沢委員、和田（喜）委員、和田（廣）委員
欠席者	長島委員、濱見委員
会議形態	公開（傍聴者なし）
議 題	1 横浜市で実施している食育に関連する取組 2 横浜市食育推進計画策定の考え方について 3 「食」に関する市民アンケートの内容について 4 その他
会議資料 の名称	1 横浜市食育推進委員会検討委員会名簿、委員会設置要綱 2 平成20年度横浜市主催の食育関連事業一覧【資料1】 3 平成20年度横浜市各区で実施している食育関連事業一覧【資料2】 4 横浜市食育推進計画について【資料3】 5 横浜市の「食」の現状・課題と横浜市食育推進計画の目標・目的【資料4】 6 横浜市食育推進計画目標数値（案）【資料5】 7 横浜市食育推進計画構成（案）【資料6】 8 市民対象アンケート（案）【資料7】
決定事項	1 金子委員が委員長に就任。 2 アンケート等意見がある場合は、7月15日までに事務局へメール、ファクシミリにて連絡。

・議事要旨

【自己紹介、委員長選出】	
企画課長	<開会のあいさつ> <委員名簿に沿って各委員自己紹介>
健康福祉局長	<健康福祉局長あいさつ>
企画課長	<庁内策定検討会議・事務局紹介>
企画課長	紹介は以上です。立花局長は次の予定が入っているためここで退席させていただきます。
企画課長	<委員長選出> 議事に先立ち、委員の皆様から委員長を決めていただく必要がございます。委員長は横浜市食育推進計画検討委員会設置要綱の第5条第1項により委員の互選により定められております。委員の中でどなたか委員長に推薦していただける方はございませんか。
今平委員	横浜国立大学の金子先生にお願いできたらと思います。
企画課長	金子先生に委員長をお願いすることでよろしいでしょうか。

<p>一同</p> <p>企画課長</p>	<p>賛同</p> <p>ありがとうございます。これからの進行は要綱第6条第2項に基づきまして金子委員長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。</p>
<p>【議題1 横浜市で実施している食育に関連する取組】</p>	
<p>金子委員長</p> <p>企画課長</p> <p>保育運営課</p> <p>農業振興課</p>	<p>改めまして金子です。委員長としてできるだけ努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、次第に沿いまして議事を進めさせていただきます。はじめに(1)「横浜市で実施している食育に関する取組」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>横浜市では本月初めて食育推進計画検討委員会を開催していますが、既に食育に関連する取組を進めております。庁内検討会議のメンバーより簡単に説明させていただきます。資料1を御覧ください。各事業につきましては所管課より説明させていただきます。</p> <p>保育所というのは、食生活の基本が形付けられる乳幼児期のお子さんの生活の場です。保育運営課では平成16年度末から保育所向けの食育計画策定マニュアルを作成、配付し、各保育所での食育計画の推進を行っています。平成20年度の主な事業が資料1にあるとおりです。</p> <p>保育園児向けの事業ばかりではなく、ホームページへの保育所給食メニューの掲載、本年度初めて行った事業ですが、地域の方向けの事業でもあります。今年度は、ホームページに更に離乳食のメニューなどを掲載し、拡充を進めているところです。</p> <p>地域向けの事業として、園児向けの食育活動への保育士派遣を行っています。市立保育所では地域の家庭と在宅のお子様、子育て中の親御さんへ育児講座なども行ってあります。そのような場所にも栄養士を派遣し、地域に対する食育も進めています。主なものとしては園児が食に対する興味を深めてもらえるように園児向けの献立表を作成していること、市立保育所は統一メニューで、日本の伝統行事にちなんだ献立、郷土料理などのメニュー、お子さんが参加して調理保育などを行います。その際などの行事食専用献立を作り、保育所に提供しています。このような取組を学会で発表し、10月には更に児童福祉施設、給食関係者向けの研修会で発表、日本栄養改善学会は鎌倉で行われ、翌10月に富山で行われている発表につなげています。</p> <p>市内の保育所職員向けの研修も続けています。昨年は7月に行いましたが、本年度も引き続き実施する予定で、各保育所の食育に関する取組の事例発表などを含めて研修会を実施します。主に保育所向けの食育の関連事業を進めさせていただいております。</p> <p>農地保全課の環境学習農園ですが、横浜市では市民利用型の農園を行っており、現在28haほど提供させていただいております。市民耕作園や栽培収穫体験ファームなどございまして、特に教育型の環境学習農園を平成19年度から実施しています。市民ニーズが高いものでございますから、引き続き提供していきたいと考えております。</p> <p>農業振興課では、市民と農との地産地消提携事業を行っています。平成18年度から実施しており、実りの秋ということで、地域で様々なイベント、JAの農業祭りがあるような11月を地産地消月間と設定し、様々なキャンペーンを実施しております。それを一つの情報誌にまとめて発行し、PRもさせていただいております。また、地産地消フォーラム2008を昨年実施しました。地産地消に関する講演、活動報告等も行ってございます。人材育成講座では、はまふうどコンシェルジュという講座を平成18年から行って、地産地消の案内や取組を拡大していただく人材を育成しています。毎年30人募集し、これまでに91名がはまふうどコンシェルジュとして修了、活躍されています。直売ネットワーク農家の参加拡大では、JA横浜さんの直売ネットワークを横浜市とリンクさせ、参加農家に対して、研修会等の提供をさせていただいております。</p>

	<p>また、市内産農産物の学校給食への供給拡大では、地産地消月間の11月に市内の小学校に対して、JA横浜さんの御協力をいただき、教育委員会、学校給食会と連携して、野菜等の市内産農産物の一斉供給を行っております。昨年度は大根と白菜を供給させていただきました。市内産農産物の生産振興関係では、横浜ブランド農産物、いわゆる「はま菜ちゃん」の普及啓発に努めております。JA横浜では「濱っこ」という農産物ブランドがございますが、普及するとともに、夏休みに子供たちに対して学校給食のメニューを提案してもらい、はま菜ちゃん料理コンクールを実施してございます。</p> <p>「地産地消ガイド横浜」をお配りしました。今年の4月1日に地産地消のホームページを大幅リニューアルいたしました。できるだけ市民ニーズに即したコンテンツになっておりまして、是非ホームページとあわせて御覧いただきたいと思っております。</p> <p>横浜開港菜新聞とリーフレットですが、開港当時に横浜から入って全国に広まった西洋野菜が非常に多いということで、昨年からプロジェクトを組み、開港資料館の方に来ていただき取りまとめたものです。実は23種類の野菜が横浜から全国に広がったことがわかりました。現在でも横浜市内でたくさん取れている有望な野菜を14種類選び、横浜開港菜と名前をつけ、今年度はこのテーマで地産地消の話題を提供していこうと思っております。</p>
<p>中央卸売市場本場 経営支援課</p>	<p>昨年度、市場と食育の普及啓発事業ということで各種の事業を展開してございます。その事業を4つほど書かせていただいております。「横浜フランス月間2008」食育教室ですけれども、ガストロノミ協議会と連携し、6月25日大鳥小学校で料理教室、市場の役割等の話をさせていただきました。</p> <p>「こどもアドベンチャー2008」食育教室は、教育委員会との連携事業でございます。夏休みの間を利用して、いろいろな職場に行ってください、その中に横浜市場も入っており、市場見学や親子料理教室等も開催してございます。なお、中央卸売市場本場には調理室もあり、こういった場を活用して食育に取り組んでいるところでございます。</p> <p>「ライフデザインフェア2008」食育講座は、本日、委員として御参加いただいている横浜市場活性化協議会との連携で、ブース出展や調理器具に関するデモンストレーション、試食会を開催しています。</p> <p>神奈川区食育教室は、区との連携事業で、お母さんと乳幼児の料理教室として、子育て期のお母さんの食育をテーマに事業を進めています。</p> <p>このほかにも食事バランスガイドの作成、水産物消費促進委員会があり、会員が協賛金を出して取り組む事業では、調理教室を活用しての魚食の普及に取り組んでおります。</p>
<p>健康教育課</p>	<p>学校における食育の推進ということで、昨年度実施いたしました4事業を紹介させていただきます。食教育シンポジウムは、食育基本法が施行された平成17年度を食教育の取組元年と位置付け、第1回を開催し、以降、毎年実施しています。昨年度の内容は、第1部に横浜F・マリノスの橋本管理栄養士を講師にお迎えし、食とスポーツに関する基調講演をしていただきました。第2部は、丸山台小学校、大鳥小学校及び保土ヶ谷区にお願いし、実践の提案をしていただきました。第3部では、食教育のさらなる広がりを求めてというサブテーマで、パネルディスカッションを実施いたしました。横浜市PTA連絡協議会、保土ヶ谷区食生活改善委員会、横浜ガストロノミ協議会、横浜F・マリノス代表の方から取組の紹介を中心として、活発な話し合いができました。</p> <p>「食教育便り」は、成長が著しい、中学・高校生の食を充実させるということで、家庭向けに年3回、9月・11月・2月に横浜F・マリノスと連携して発行しています。家庭における栄養バランスのとれた食生活、お弁当作りの支援といった切り口で発行しています。</p> <p>「食教育の推進プロジェクト」は、平成19年度に学校における食育の推進として、横浜F・マリノスに参加いただき、会議を6回行い、家庭用の食教育便り、学校の教職員用、学校における食育の実践集などの作成を行いました。</p> <p>最後に小学校・中学校の食育推進ですが、学校ごとの食に関する指導計画として、食教育の推進計画を策定しております。平成20年度は、345の小学校、12の特別支援学校全部で計画を策定しており、平成21年度は実践しております。中学校、高等学校は、今</p>

<p>食品衛生課</p>	<p>年度計画を策定する予定で取り組んでいるところでございます。</p> <p>食中毒の予防、食の安全の推進として、施設の監視指導、製品の検査を行っています。まず、「リスクコミュニケーション推進事業」は消費者の皆様の日ごろからの疑問、販売される方の食品に関する質問、行政の施策に関する質問を三者で意見交換を行う事業でございます。秋の10月から11月に食の安全に関するシンポジウムを開催しています。テーマは輸入食品、食品添加物、表示に関するものを含めた意見交換です。各区におきましても地元の食品業者を招き、消費者、事業者、行政とで意見交換を行っています。</p> <p>「食中毒予防キャンペーン事業」ですが、8月1日は横浜市市民食品衛生の日と定めています。この日を中心として市民の方々を対象に、食中毒予防に関する正しい知識の普及などを行っています。食品衛生協会との共催事業です。18区各区で開催しており、楽しんで食品衛生について学んでいただけるよう、クイズ形式にしたり、ゲームをしながらなど工夫して実施しています。</p>
<p>保健事業課</p>	<p>平成13年度に市民の健康づくりの指針として健康横浜21計画を策定し、これに基づき事業を推進しております。この計画は主に生活習慣病に重点を置いており、食分野に関しては3つの大きな目標を掲げております。朝食を食べる市民を増やすということ、野菜を1日350グラム食べる、適切な体重の維持、ということで、3分野の推進のために、各区役所を中心として様々な事業を実施しております。</p> <p>資料2を御覧ください。食分野の取組に関して、関係団体の方々の御協力をいただき実施しております。平成20年度の事業ですが、例えば、鶴見区では、大手スーパーマーケットの売り場に催事スペースをお借りし、食事バランスガイドのPRや350gの野菜の計量など実演を兼ねながら市民の身近な場所で啓発活動を行っております。区役所ごとの計画が載っておりますので御覧いただければと思います。</p> <p>こういった取組の中で本日、委員として御参加いただいている団体の方々にもお世話になりながら実施をしているところでございます。</p> <p>その他、「生活習慣改善講座」は市民を対象に、糖尿病の話、検診の後のフォローとして相談や教室などを実施しております。</p> <p>「食生活等改善促進育成支援事業」、「市民の健康づくり推進事業」は、育児グループに伺い、おやつを作って差し上げたり、高齢者のための講座、妊婦さんの料理教室などもしております。健康相談、訪問指導といった形での支援もしております。</p> <p>その他、特定給食施設指導として、一定の給食数を提供する施設に食品の栄養表示などを通じて食育のアドバイスをさせていただくことも実施しております。</p>
<p>企画課長</p>	<p>横浜市の説明は以上です。</p>
<p>金子委員長</p>	<p>市の食育に関連する事業をたくさん紹介いただきましたが、御質問・御意見はないでしょうか。</p>
<p>日和佐委員</p>	<p>保育園児から成人まで様々な食育の事業が多面的に展開されていることに大変驚きました。ただ、やりましたという御報告であったので、漠然としてでもかまわないので、やった結果がどうだったか、問題点はどこにあるのか、どの程度の効果があったと判断しているのかなどを、簡単に成果が出る問題ではないと思いますが、大まかでいいので教えてください。</p>
<p>保健事業課</p>	<p>先ほど例に挙げたスーパーマーケットでの実際の体験では、食生活改善推進委員の皆様が、いろいろな野菜を50gや30gなどに千切ったものを置き、市民の方に実際に350gがどのぐらいかを体験していただくことによって、どの程度取らなくてはならないかを理解していただけたと思います。身近なところに出向いて実施したことによって、30代、40代の若い方の参加が増えました。</p>
<p>食品衛生課</p>	<p>リスクコミュニケーション推進事業では、事業者と消費者と行政の三者で話をする中</p>

健康教育課	<p>で、輸入食品についての企業の検査体制の話を伺いました。例えば、現地（外国）についての管理、農薬の使用の管理、収穫後の検査など、通常では表面に出てこない話を詳しく説明いただき、消費者がそこまで取り組んでいるのかと理解でき、理解が深まったと御意見をいただきました。</p> <p>横浜F・マリノスさんに御協力いただく中で、サッカー選手の食事を紹介するなど、バランスよく食事を取っていただくために、冊子を使い、御家庭でもなじんでいただくように取り組みました。小学校・特別支援学校の授業の中や他の時間帯においても、食育の時間を設けるように学校全体で計画を作ってくださいました。チャンスがあっても計画しないと、時間を確保することは難しく、対応がまちまちになるので、学校全体で必ず網羅することをお願いしながら、学校長の方々に協力をいただき、学年ごとにきめ細かく盛り込むことができました。</p>
日和佐委員	<p>すべての局でなくても、食育全体として、どのような事業が、どのような効果を発揮したのでしょうか。子供たちは本当に食べることについて、考え方が変わってきたのか、お母さんたちは朝ごはんを食べさせるようになってきたのか、という効果の検証が必要だと思います。効果を測定しにくい分野は多いですが、こういう効果があったということについては、おまとめいただくことで、課題も見えてくると思います。それらを見直し、課題を改善するために次々とスパイラルアップをすることが必要ではないでしょうか。その辺りも御配慮いただければ、具体的な食育が進むのではないかと思います。</p>
金子委員長	<p>貴重な御意見ありがとうございます。他に御意見はいかがでしょうか。</p> <p>次の議題に入る前に、本日御出席いただいている委員の方々の食育に関する様々な取組や、食育推進計画に期待したいことなどお話しいただきたいと思います。</p>
今平委員	<p>横浜ガストロノミ協議会は、横浜の食を盛り上げていくことが活動の根本にあります。その中で一緒に子供たちに食の大切さを知ってもらいたい。料理人は作る側ですが、料理人の格好に、子供たちはすごく注目してくれます。和洋中の料理人の皆さんが、一つの食を通じて、料理を作りながら、もっと何か大切なこと、それを集中して見てもらえる、子供たちが聞く耳をもってくれる中で、もっといろいろなことができるのではないかと思います。</p> <p>学校ではPTAのお母さん方にも手伝っていただきますが、お母さん方もまた、聞く耳も持ってくれます。授業の際は子供たちと一緒に給食を食べます。その席でもいろいろ感じる場合があります。今回は開港150周年、リヨン市との姉妹都市50周年の記念でもあり、教育委員会にお願いし、学校給食のメニューを決め、リヨン風のものを作りました。調理師・栄養士の皆さんにも協力いただき、横浜市の小学校の皆さんに4回に分けて召し上がっていただきました。この会議でも料理人として、皆さんに何か伝えられることもあるかと思います。学校には、西洋ネギを植えてほしいとお願いしました。期間が間に合わず、その代わり、キャベツは間に合うということで、給食で食べてもらうために、学校で苗を育ててもらい、一緒に植えました。実際に給食には間に合いませんでしたが、自然のことで、無理に育てることもないなど、食を通してメッセージを送れるのではないかと思います。料理人の格好、制服は注目を浴びるので、何か伝えることができると思いながら活動しています。</p>
中山委員	<p>J A青壮年部の顧問ですが、職業は農業をしています。日ごろより食に関する部分は、人間の根源であり、生産の立場で携わっているという意識は常に持っています。青壮年部の中での取組として、横浜の食と緑を守る若者たちをテーマに発表を進めています。その中で本日、矢沢委員もJ A横浜の営農部長として、横浜市の松本課長から紹介もありましたが、11月に行われた地産地消月間に、横浜産の野菜を給食へ一斉供給したとき、市内に畑はありますが、畑がない区に出向き、実際に種や野菜を持って行き、野菜の説明をする学校での農業教室という活動を何区かで行いました。農業・食を理解してもらうために説明し、一緒に給食を食べるという形で行っています。実際に何が見えてくるのかと言うと、自分たちがやりましたで終わるのではなく、子供たちがどうい</p>

	<p>思いを感じ取れるかが大切なことだと思います。一緒に最後まで給食を食べてくると、うれしかったのは栄養士さんに後から、残す量が今日は非常に少なかったという報告をいただいたり、子供たちと一緒に食べてくると一生懸命食べてくれるのを実感します。そういった意味で食を考えると、農業という生産する現場から見る部分が子供たちにとって刺激的な部分が大いに影響があるのではないかと感じています。共に考え食してみるという部分の活動が大切であると実感しています。</p> <p>個人的にも小学生の子供たちを畑に招いて農業体験をしてもらったり、学校に出向いて種まきを教えたりしています。現状はボランティア的に行っています。根底にある食育という部分がまだまだ広がっていないと感じます。熱心に取り組む教員のところではやりやすいですが、そうでないとやりにくいことがあります。広がりを持たせるには、根底にある部分を底上げしてもらった方が、ボランティアグループも動きやすいと思います。そのことによって食育の部分も活性化するのはないかと感じています。検討委員会で良い結果が出ることを期待しています。</p>
<p>委員長</p> <p>岩瀬委員</p>	<p>他はいかがでしょうか。</p> <p>私どもは市場で魚の卸を行っています。小学生が見学に来て、市場の中を案内し、生けすを紹介します。最初驚いたのは、マグロは切り身のままで泳いでいるという認識を持ったお子さんがいたことで、魚を実際に見た事がなく、調理されたものしかない。泳いでいる魚をその場で食べるように下ろしましょうかと提案したら、付き添いの先生方が「子供が目の前で血をみるのは駄目なので調理はやめてください」というお話でした。非常にショックで、市場の中での料理教室、消費食品委員会を作り、その中で親子の教室や新婚さんの教室を作っています。始めたところ、参加される親子の方々には、家でお母さんのお手伝いで包丁を握ったことがあるかと聞くと、参加されるお子さんの半分ぐらいはお母さんのお手伝いで包丁を握ったことがありました。また、参加する方の1/3以上はお父さんが御一緒に、興味のある方が参加する状況にあります。このような形を底辺から広げていくことが食育のスタートかと思います。新婚さんでも包丁を握ったことがないまま主婦になられる方がいます。御主人になられる方と一緒に初めて料理をすると、それからスタートして、料理に入る。美味しいものをどうやって食べるか、その先に自分で料理することが必要です。魚の場合は、給食だと要求されるのは骨のない魚です。骨をどうやって取って食べるかが食育で、のどに引っ掛かるので、骨を注意して取ります。最初から魚は骨がないという料理しか出てこないのは本来の食育と離れていくと思います。</p>
<p>馬場委員</p>	<p>3人の委員の方のお話で学校が出てきました。学校は子供がいて、家庭があり、地域が出てきます。食育では関連するところが大きいと思います。一番は子供たちに自分たちで管理する、選択する能力、最終的には自己管理能力を目指しています。到達するまでいろいろあり、すぐに結果や成果が見えるわけではありません。家庭と学校と地域と連携していかないと成果が見えていかないので。学校ではいろいろなことに取り組んでいますが、食教育計画は私の学校でも策定しています。全体の食教育、学年ごとの食教育、各担任がこれを見ながら、食に関する様々な指導をしています。時間的にもいろいろなところ、特活の時間、総合的な学習の時間、教科との関連では、社会、家庭科、理科も結び付きが強く、いろいろなところでもできます。給食の時間も重要な時間ととらえています。食べるということに関しては、家庭は5/6、学校は1/6、給食は1年間にだいたい185回です。1/6の時間を上手に使い行わなくてはなりません。計画は昨年度作りしました。食育基本法ができてから、学校教員の意識も大分変わってきています。子供たちの興味・関心・知識も豊富、興味も高まっており、最終的には自己管理能力に結び付き、意識は高まってきていると思います。魚をさばくことなどを行っている学校もあります。本日、私の学校では清水で体験学習会をしています。明日の朝、起きたらすぐ漁船に乗り、魚と一緒に捕り、その魚を自分たちでさばいて刺身にし、食べる予定です。味噌汁を作ったり、焼いたりもします。内蔵だけ取って焼くということもいい体験になると思います。要するに学校はいろんなことができ、育てる、調理する、食べる、調べるまであります。食に関心のある子供たちを育てることは大切であり、幼稚園から</p>

<p>金子委員長</p> <p>矢沢委員</p>	<p>小学校を卒業した後、中学校、高校、成人の結び付きを大事にしていけば良いと思います。</p> <p>矢沢委員に御発言いただき、時間を見ながら、次に進みたいと思います。</p> <p>私どもは農協なので、食とは関係が深く、農業振興課はもちろん、各局で行われた活動に半分以上かかわっている状況です。農協なので、食については2通りのやり方をしています。一つは農協が主体的になっての活動です。幼稚園児から、小学校、中学校、高校、家庭の主婦、一般市民を含めて行っています。もう一つは、農家が、学校に指導に行ったり栽培指導をしたり、大変熱心に行っているところが大変多いので、食育に一生懸命取り組む方を支援していくことで、これも大事と考え取り組んでいます。食農教育マイスターということで募集し、登録した方の活動を支援しています。農協なので、食育に言葉が付け加わり食農教育と考えています。農を中心にとすると、食べることの大切さはもちろん、生き様、命をはぐくむこと、心の教育がかなり重要になってきていると感じます。</p>
<p>【議題2 横浜市食育推進計画策定の考え方について】</p>	
<p>金子委員長</p> <p>企画課長</p> <p>企画課担当係長</p> <p>金子委員長</p> <p>矢沢委員</p> <p>金子委員長</p> <p>企画課長</p> <p>金子委員長</p> <p>和田（喜）委員</p> <p>健康教育課</p>	<p>食育推進計画の考え方について、事務局から御説明をお願いいたします。</p> <p><資料3・4に沿って説明></p> <p><資料5・6に沿って説明></p> <p>資料3・4・5・6について御意見がありましたらお願いします。</p> <p>地産地消のことで、はま菜ちゃんの認知を聞くというアンケートであります、農業関係に携わっている者としては「浜なし」など他にもいろいろあり、はま菜ちゃんだけで地産地消の推進を図るのはいかがでしょうか。</p> <p>事務局で再度検討をお願いします。</p> <p>できるだけ対象を広げて取り組みたいと思います。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p> <p>地産地消に関して資料5の3番目、公立小学校の学校給食において、地場産物の使用が15%という目標ですが、国や神奈川県が30%としているのに、なぜ15%なのか御説明いただきたいと思います。パーセントの出し方は、給食の原材料における量の割合か、使用する回数の割合なのでしょう。</p> <p>15%で良いという判断ではありません。国や県に近づけたいと思います。この数字については、今後、この会議でどのように設定するか検討いただきます。教育委員会では平成18年度に食教育の推進計画を平成22年度までの計画として作り、地産地消月間などで取り組んでいます。数値目標は新たにこの会で検討していきたいと思います。指標は、トン数・かさ<誤り：正しくは品目数>でパーセントを出しています。学校給食は20万食であり、すべての学校で供給しなくてはなりません。きちんとその日にその野菜がそろうということも必要なので、それらも含めて実施していきたいと思います。</p>

【議題3 「食」に関する市民アンケートの内容について】	
金子委員長	他はいかがでしょうか。計画については10月も議論するという事によろしいでしょうか。続いて、議題3の「食」に関する市民アンケートの内容について、事務局より説明をお願いいたします。
企画課担当係長	<資料7に沿って説明>
金子委員長	全国の自治体での食育推進計画を見ると、ほとんどの自治体で現状を把握した上で策定しています。アンケート案について御意見をお願いします。
岩瀬委員	地産地消イコール農作物となっていますが、地元の魚に全然触れられていないので入れていただきたいと思います。
伊奈委員	医療の立場でアンケートを拝見すると、どの項目も食に対して健常者の方を対象としたアンケートに見えます。保育園の教育でも沸かせた議論は、食の形態の変化、離乳食から体の構造が変わって、栄養の取り方がこう変わると説明しています。最近では食の形態が崩れているお子さんが多い。好き嫌い以前のいろいろな問題を抱えています。横浜市においても「健康横浜21」がありますが、障害なく食事ができることを前提にしているのではないかが気になります。年齢にかかわらず、食べたくても食べられない方もたくさんいるので、食事を取るに当たり、どのくらい障害があるかも入れていただきたいと思います。弱者へ配慮した項目も検討をお願いします。
長谷川委員	食品衛生協会は、食に関する製造・流通・販売まで、各部門の業者が集まって形成しており、食中毒ゼロの活動を行っています。アンケートの件ですが、8月は各区で食中毒ゼロのPRを含めたいろいろなイベントを行っています。食の安心安全等のアンケートに答えてもらい、粗品も提供しています。質問を凝縮する中で、そういう場面でアンケートに協力いただければ、18区すべてで行っており、各区で100人ぐらい、西区では300～500人が集まっており、送らなくても効率的に回収できるのではないのでしょうか。
金子委員長	ありがとうございます。アンケートについてはじっくり検討いただき、事務局へ御意見をお願いします。
日和佐委員	具体的な設問で、ダイエットをしなくてはいけないのでしている人の意思が反映されないで、何のためにダイエットをしているのかの設問があったほうが良いと思います。27P、2世帯住宅でも、家計が独立ということもあり、そこがこの設問の中では取り込めないで、取り込めるようにした方が良いと思います。地産地消は農業に特化しているので、水産や酪農、畜産も含めた地産地消にしていただければと思います。
企画課長	8月にアンケートを実施したいと考えているので、今月中旬の7月15日までに事務局にメール・ファクシミリ等で御意見をいただければ幸いです。
【議題4 その他】	
金子委員長	最終的にアンケートを委員が確認するの必要はありますか。
企画課担当係長	7月15日までに御意見をいただき、事務局で修正します。御一任いただければ最終のものを委員の皆様へ送らせていただきたいと思います。
金子委員長	よろしいでしょうか。では、景品を提供していただける企業があれば御紹介ください。最後に何かありますでしょうか。

企画課長	本日は活発な御意見をいただきありがとうございます。次回の検討委員会は8月のアンケート実施後、結果を踏まえて10月ごろに開催したいと思っております。日程については、調整して連絡させていただきます。
金子委員長	資料3から6をじっくり御覧いただき、貴重な御意見をお願いします。 これをもって、第1回食育推進計画検討委員会を終了します。長い時間ありがとうございました。

<議事終了>